

# 甲斐の防衛線

相模国との境である郡内地域は、度々武田氏と北条氏の合戦の地となった。桂川流域には、中世に築城  
これらの城は国境警固のために築かれたとされる。

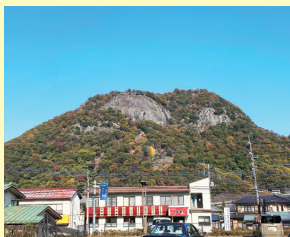


武田氏・小山田氏が戦のために何度もこの周辺に集結した。周囲の景観とともに国の名勝に指定されている。

守護武田信重を開基とする。信重の母は小山田家出身である。

## ④7 岩殿城跡

隆起によってできた岩殿山の山頂に築かれた天然の要害。甲斐国の東方を守る拠点として機能したと考えられている。小山田氏の詰城とされてきたが定かではない。武田勝頼が最期に目指した山城として著名である。山頂部には、城の防衛に関わる遺構などがよく残っている。県指定史跡。



④7 岩殿城跡

## ④8 伝笠原清繁後室の墓

天文十六年（1547）、信濃志賀城主の笠原清繁が武田晴信に攻略される。その後、清繁の後室は小山田信有に迎えられ、この地で没した。宝林寺にその墓とされる五輪塔が残る。



④8 宝林寺

## ④9 円通寺跡

かつて岩殿山の南東麓に存在した天台宗寺院。10世紀初めの成立と考えられる。現在は廃寺となっているが、三重の塔の基礎や、七社権現跡・新宮跡が残されている。大月市指定史跡。



④9 円通寺跡

## ⑤0 鎌田氏館跡

鎌田氏は相模国出身であり、鎌倉幕府の執権北条氏と將軍の親裁を求める和田義盛が争い、北条側が勝利した和田合戦後に福地(大月市)の地が与えられた。現在は、館の中心とされる場所に諏訪犬嶋神社が建つ。大月市指定史跡。

## ⑤1 保福寺

上野原地域の国衆・加藤景忠の創建という。さらに江戸時代の地誌『甲斐国志』には天正五年（1577）に加藤信景が再興したという記述がある。江戸末期の豪壮な様式を示す山門と鐘楼は、上野原市指定文化財。

## ⑤2 諏訪神社

古郡神社ともいう。古郡郷は現在の上野原市域にあったとされるが、都留市や大月市とする説もある。武蔵七党の横山氏が支配したという。この神社は、『甲斐国志』によると、天正五年に加藤信景とその子が再興したとする棟札が残っていた。



大月ルート(往復) 上野原ルート(往復)  
 徒歩 4時間 徒歩 4時間  
 車 1時間 車 1時間

大月市

上野原市

とされたと考えられる多くの城郭跡がある。



うしくらじんじや  
**⑤③ 牛倉神社**

永禄年間(1558~70)、加藤景忠と子の信景により社殿が再興されたという。永禄十二年、武田氏と北条氏の戦いにより、諏訪神社とともに戦火をこうむった。



⑤③ 牛倉神社

うちじょうやかたあと  
**⑤④ 内城館跡**

中世の上野原を支配した古郡氏や加藤氏の居館跡とされ、上野原城とも言う。周囲を断崖や深い谷に囲まれて敵から攻められにくい場所にあり、その外側に家来の屋敷などが配置されていたと伝えられる。現在、館跡には稲荷神社が建つ。上野原市指定史跡。



⑤④ 内城館跡

おおくらようがいとりで  
**⑤⑤ 大倉要害砦**

国境警備の砦とされる。現在は登山コースが整備されており、頂上には高さ1メートルほどの土塁跡が残る。



⑤⑤ 大倉要害砦登山道入口と山神社

ながみねとりであと  
**⑤⑥ 長峰砦跡**

加藤景忠が築いたとされる砦。甲斐国の東口を北条氏の侵略から守るために監視を行った。同所は、やや高めめの丘の上にあり、当時の交通の要所であった。発掘調査によって、郭や堀の跡が見つかり、また青銅製の鉄砲玉などが出土した。現在は中央自動車道の北側に土塁や腰郭などの遺構が残る。上野原市指定史跡。

やつぼざか こせんじょうあと  
**⑤⑦ 矢坪坂の古戦場跡**

矢坪坂は旧甲州街道の矢坪から新田の間にあり、崖と山腹の間を道が入り組む要害の地だった。享禄三年(1530)、相模から北条氏綱の軍勢が侵攻した時、小山田氏の手勢が坂の上で待ち構え、激戦が展開された。上野原市指定史跡。



⑤⑦ 矢坪坂の古戦場跡



⑤⑩ 鎌田氏館跡



⑤⑪ 保福寺



⑤⑫ 諏訪神社